

# 網張ビジターセンター ニュースレター



Amihari  
visitor center

Vol.79  
2018.7



華麗なる大変身!

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori \* 網張の森の生き物たち \* amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

## 羽化した“コエゾゼミ”

雨続きの低温から一気に気温が上昇したある日の午後、草取り中の温泉館スタッフが「見慣れないけど、これな〜に？」と、土のついた黒っぽいものを届けてくれました。それはコロんとしたセミの幼虫でした。またとない機会なので、水のない水槽に自立できる木を立てておき、その中でしばらく様子を見ることにしました。「もしかして羽化する姿が見られるかも？」という淡い期待とは裏腹に、夏休み間近で連休前という慌ただしさの中では、じっくり観察し続けるのは難しく…。閉館時間を過ぎてようやくひと息ついた頃には、左の写真のような儂げな翡翠色のセミが殻から既に出ていました。惜しくも羽化の瞬間は見逃してしまいましたが、その動きから“ノコノコ”と呼ばれるずんぐりしていた幼虫は美しいセミへと大変身を遂げていました。時折、脚をムズムズさせるなど動作確認？する姿も見られました。一晩ののち、どこから見ても立派なセミになり森へかえすことに。夏本番を迎えた森の中では、“華麗なる大変身”を無事に成功したセミ達が姿を見せ始めていますが、見つけるたびに「よく出てきてくれたね〜」と声をかけたくなる出来事となりました。

“What is Koezozemi”?

『森林性のセミ』

セミ科

全長：47～54mm

分布：北海道、本州、四国

針葉樹を好むやや大型のエゾゼミと似ているが、この種はブナやミズナラなど様々な木で見られる。幼虫の“ノコノコ”は地域で様々な呼び名がある。

縄文人は、幼虫がウルシの葉を傷つけその汁で殻を接着させ脱皮したところからウルシを接着剤として使用したと言われる。

(参考図書：「森の自然学校」) (羽化直前の幼虫)



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori



# 網張から見える 山ノート

12ページ目 赤林山

## 赤林山

標高：855m

位置（網張VCから）：南南東

登山適期：通年、特にイワウチワ等早春の花々を楽しめる4月～5月がお勧め。

特色：盛岡市と矢巾町の境に位置する。南昌山と似た特徴的な椀状の山容をしている。

前回の号で、志波三山の一つに数えられていた赤林山にふれたので登ってみる事にしました。登山口は矢巾温泉に隣接し、入山届とポストもしっかり完備されています。アプローチこそ緩やかですが、小さな沢を渡渉した一合目から突然急傾斜に変わります。藪こぎを見越してオーバーブンははいていたせいもあり、一気に汗ばみました。スギの植林地を過ぎると広葉樹とアカマツの林になり、標高が上がるにつれてブナの比率が高くなっていきます。一部の登山道はササに覆われていましたが、コース上に表示板(①～⑨)があるので安心して登れました。あいにく山頂を含め展望地はありませんが、緩急のあるコースで一汗流したい人にはぴったりの山です。



東方向から、山も納得してくれそうな一枚を撮るのは難しい

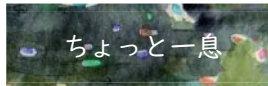


### 昼行性のホタルみつけた！

夏の夜、人の心もほのかに灯してきたおなじみの虫。ホタルの仲間には日本に約40種類いて、じつはその大半は昼間に活動するタイプです。幼虫は陸生の貝やミミズ・ヤスデを捕食。成虫は光ではなくフェロモンでやり取りをするため、その分触覚が発達しています。

カクムネベコホタルの♀

### キセルガイの仲間



### ちょっと一息

早稲屋敷周辺で撮影場所を探索中、涼感を呼ぶスイレンの水場に引き寄せられた



# Amihari Birds

## コマドリ

科名：ツグミ科  
全長：約14cm  
生態：夏鳥  
分布：九州以北と屋久島

## 鳴き声

ツンツンツン、  
ヒンカラララ、  
ピッピロロロ...

アミハリ・バーズ Vol. 2 2



7月のうだるような暑い午後、岩手山の御神坂コースを下りる際、大滝展望台で休んでいました。すると馬のいななきのような声が、火山と浸食でできた深い谷から響いてきました。大きくて特徴的な声の主はコマドリ（駒鳥）で、ウグイスとオオルリとともに日本三鳴鳥に数えられるそうです。コマドリは山岳地（1,000～1,500m）にやって来て、求愛やなわばりを主張するためにさえずります。渓谷好きから一沢一駒と呼称されることも。岩手山馬返しコースの五合目・旧道と新道を結ぶ連絡道にも「駒鳥清水」という水場があります。昔の人はコマドリの声を頼りに水場を探した、なんて事があったのかもしれない。

# 喜作先生の自然スケッチ



## “キハダ（黄膚）ミカン科について”

キハダは雌雄異株（シウイユ）樹木で♂が別株（例としてイチヨウ）である。キハダは高木（樹高8m以上）で樹皮は厚く灰白色で凹凸がある。樹皮を剥ぐと形成層は見事な黄色をしている。

葉の光合成産物は枝を通り、幹と枝の分岐点より幹の下方に送られ幹を太くし根張りを広げるのに役立つ。幹の樹皮を剥く時は地上20cm以下を剥ぐこと。材利用のため木を伐倒する時は、20cm以上なので、もし傷が20cm以上にあると、材として一番利用価値がある一番玉の価値が下がってしまう。このことは全ての樹種に当てはまる。また剥皮（ハレ）は1cm×1cm以下にすべきと思う。

この剥皮をなめてみても苦くない。盛岡市内の漢方薬局に聞いてみたら今でも内皮を乾燥したものを健胃や下痢止め、打撲傷薬として薬品名を陀羅尼助（タラニサ）、黄栢（オハク）、黄檗（オハク）として販売しているとのこと。塩化ペルベリンが多く含まれているとのことだが、なんでも黄色になるのか私にも分からない。キハダの実は苦いような酸っぱいような嫌な臭いと味がした。畑にまいてみたが発芽しなかった（1970年ごろの経験）。再度ポット播きをしたいと思っているが、誰か情報を下さればと願っている。

網張の休暇村から網張ビジターセンターへの高架木道の途中に樹高12mキハダの♀木と♂木が8mの間隔で生えていて6月8日にビジターセンターの大堀さんが案内してくれた。♂木には蕾がびっしり、♀木には蕾が少し着いていた。6月20日に大堀さんが両方の花を届けてくれたが、急に病気入院ということになりスケッチできなくなった。

その為、今回は植物図鑑の図でご容赦願いたい。来年こそスケッチしたいと思っているがキハダの着花サイクルは私には不明である。

追記：岩手県植物誌にはキハダの他に「オオハノキハダ」が普代と安家に、「ヒロハノキハダ」が県内殆どの地域に分布していると記載されている。（亀山記）

\*亀山先生は、網張調査当日に体調不良で入院され、静養中にも関わらず上記の文を寄稿してくれました。現在は退院され、フィールドで元気なお姿を見られる日もそう遠くないと思います。

上記の図 原色日本林業図鑑 第一巻 倉田 悟編  
地球出版KK(1971年11月改定版)より

- 他に参考文献として
- ・日本の野生植物 木本Ⅰ、Ⅱ 佐竹 義輔外3名 平凡社(1989年2月初版)
  - ・薬草カラー大辞典 伊澤 一男 主婦の友社(1998年4月初版)
  - ・樹木大図説Ⅱ 上原敬二 有明書房(1961年4月初版)
  - ・岩手県植物誌 岩手植物の会(1970年9月)

写真：網張のキハダ ▼雌花 ▼雄花 2018.6 撮影



## 岩手山地区パークボランティアの素顔(その4) 国立公園を支える陰の力

**原 由美さん** 国立公園の現場で活躍する環境省のアクティブインジャー第一期生として赴いたのが陸中海岸の宮古地区。その地区のパークボランティアは一人一人が歴史、民俗、自然に詳しく、さんざん鍛えられて学ぶことも多かったという。その後、結婚して退職、御主人の転勤をきっかけに岩手山地区パークボランティアの活動に参加して初代の事務局長を務める。・ご出身は？・「盛岡市です。今は主人の実家の花巻住まい。」・自然に関わるようになったきっかけは？・「以前はコンピュータ関係の仕事をしていて、その反動で自然に寄り添う仕事をしたかった。NACS-J自然観察指導員、キャンプ指導者、ネイチャーガイドといった資格を取って活動の幅を広げていきました。」・岩手山地区パークボランティアの印象はどう？・「いい意味で紳士、淑女の集団。他地区のパークボランティアはもっと山男、山女の雰囲気濃厚。」・事務局の仕事は大変だったでしょう？・「会長さんがしっかりしているのでお気楽な事務局でした。みんなが年上なのでパシリに徹しました。」・国立公園を利用する人に対して何かアドバイスは？・「ひとつの場所で違う季節を楽しんで欲しい。四季それぞれに違う魅力を発見できますよ。最近は私自身、山頂に行かなくてもいいと思うようになった。途中でいろいろなものが見つかる。今は野生のランと出会うのが楽しみ。」・心に残る風景は？・「20年前に行った沖縄小浜島のサンゴ礁、シュノーケリング中に会った多くの美しい魚たち」・知識が豊富でいつも落ち着いた雰囲気の彼女の趣味は、なんと御主人とオートバイでのツーリング。週末はKawasaki Ninja650で八幡平の山岳ロードを駆る姿が見られるかも？



## 網張ビジターセンターは子どもたちの自然体験をお手伝いします！

自然豊かな網張の森／鞍掛山麓ドングリの森で自然体験を楽しむ保育園・幼稚園や環境教育を行う小学校が増えています。興味関心がある方はビジターセンターへ、ご一報ください。スタッフが親切に対応いたします。

滝沢第二小学校 校外学習

こども食堂 ウォークラリー



6月



7月

# 自然観察会報告

6月16日(土)

国立公園で楽しむ親子の自然体験Ⅰ

フログガイドと姥倉山に登ろう



登山や植物のいい勉強になったよ！

一般参加者数 19名 (子ども9名)  
支援PV 12名

6月30日(土)

市民火山教室

三ッ石山の成り立ちを探る



八幡平や三ッ石山の山頂部に溶岩があるという考え方が新鮮でした。

一般参加者数 10名 支援PV 6名

写真提供：岩手山地区パークボランティア

\*インフォメーションコーナー 詳しいお問い合わせは網張ビジターセンターまで



9月9日(日)

国立公園で楽しむ親子の自然体験Ⅴ

昨年の行事風景 ⇒

「炭火でお米を炊いてみよう」

定員：親子5組 10名 参加料：大人 500円 中学生以下 300円

講師：坂内 信彦氏 (炭焼きさん)

時間：10：00～14：00

集合場所：相の沢駐車場

子どもたちも、こんなにご飯の味が違うとビックリです。栗石で焼いた炭を使って土鍋で炊き上げます。



9月30日(日)

「網張の森でキノコと親しくなろう」

定員：20名 参加料：大人 500円 小学生 300円

講師：原 勝男氏 (岩手菌類同好会会員)

時間：10：00～12：00

集合場所：網張ビジターセンター

食べられるキノコ同定会ではありません。キノコ(菌類)の生態を通して森のしくみを深く知るプログラムです。



◆◆ 現在開催中の網張ビジターセンター企画展 ◆◆

7月1日から8月31日までビジターセンター展示コーナーにて



～鬼海裕一写真展～

「湯煙猿・雪猿  
月輪熊・熊・白熊」

◆◆ 鬼海 祐一氏 盛岡市在住 1949年 北海道 北見市生まれ  
2007年から各地で野生動物の写真展を開催、今回で12回目 ◆◆

岩手山 山開き記念手拭

ビジターセンターにて 販売中!!



今年の  
モチーフは  
「シラネアオイ」  
¥700

デザイン：版画家 阿部 陽子さん (日本山岳会会員)  
製作：滝沢市観光協会

## モモンガのつぶやき

先日、VC前でちょっと弱ったアサギマダラに出会いました。道路にたたくので、手に取り安全な石垣の上に移動。しばらくカメラにつきあってくれた後、意を決したように飛び立ちました。

見上げてみると、羽ばたきをしない滑空も披露！南の島から続く空の旅、終着点はいずこかな。

(K.H)



十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆5月 1,870人 ◆6月 1,585人

朝9時のビジターセンター平均気温 ◆5月9.0℃ ◆6月11.7℃

発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 夏期(4月から10月末まで) 休館日なし 9時～17時